

序

『チームを創る』が出版されたのは昭和五九年だった。それは平成元年八月二五日発行の第四刷で絶版になった。

その後私は、昭和六一年以降の出来事を書いた本を出した。タイトルは『続・チームを創る』とした。それは平成四年に書きあげた。その原稿を書いている時、絶版になった『チームを創る』の内容に加えるべき出来事や、述べてある事が説明不足であったりするものを、私は資料の中からたくさん掘り起こした。

前々から、「先生、あの本もうないんですか」という読者の声をしばしば耳にしていた私は、ちょうどよい機会だと思い、『続・チームを創る』の原稿を書き上げた後に『チームを創る』の内容を整理してもう一度書き直す事にした。それがこの本である。

書き直すにあたり、

第一章『指導者としての歩み』

第二章『人を動かす』

第三章『指導の実際』

の章立てはそのまま残した。しかし、内容については掘り起こした事例と入れ替えたりしたものや詳しい説明を加えたもの等が増え、かなり変わった。そして今回の本にはそれに二章加えた。

それは、

第四章『チーム創りの基本構想について』

第五章『ケガの予防と復帰』

である。

私は人生というものを二〇年区切りにして次のように考えている。

- 一、二〇才までは法的にも親の保護下にあり、多くの方々の力を借りながら育ててもらう。
- 二、二〇才になると大人として扱われるが、二〇才になるまでに多くの方々の力を借りるだけ借りて育ててもらったのだから、四〇才までの二〇年間はその返済に費やす。
- 三、四〇才になって返済が済めば、次の二〇年間はそれまで生かしてもらった恩返しで世の中のために何か役に立つ事をしなければならぬ。
- 四、六〇才を過ぎたら今度は自分のために何かをやらせてもらおう。

私が勝手に区切った自分の人生の区分にあてはめれば、私は今、世の中に恩返しをしなければならぬ二〇年間の丁度なかほどを歩いている事になる。私に出来る恩返しといえば若いコーチたちの道しるべになってやる事ぐらいしかない。そういう意味でこの本が役に立ってくれればいいなあと思っている。

目次

- 第一章 指導者としての歩み
 - 一 出逢い
 - 二 がむしゃら（一―二年目）
 - 三 溺愛（二―三年目）
 - 四 過信（三―四年目）
 - 五 壁（四―五年目）
 - 六 迷い（五―六年目）
 - 七 再起（六―七年目）
 - 八 全国優勝（七―八年目）
 - 九 バスケツトを離れて（九―十一年目）
 - 一〇 鶴鳴（十二年目以降）
 - 十一 入院
 - 十二 回復
- 第二章 人を動かす
 - 一 選手を集める
 - 二 人を育てる
 - 三 チームを創る
- 第三章 指導の実際
 - 一 練習
 - 二 試合
- 第四章 チーム創りの基本的な考え方
 - 一 練習計画の立てかた
 - 二 バスケツトボールの技術
 - 三 プラクティスとトレーニング
- 第五章 ケガの予防と復帰
 - 一 はじめに
 - 二 実態
 - 三 傷害や疾病の予防
 - 四 傷害や疾病の発生とその処置
 - 五 リハビリテーション
 - 六 復帰後
 - 七 おわりに